

種の保存につき講ずべき措置への意見

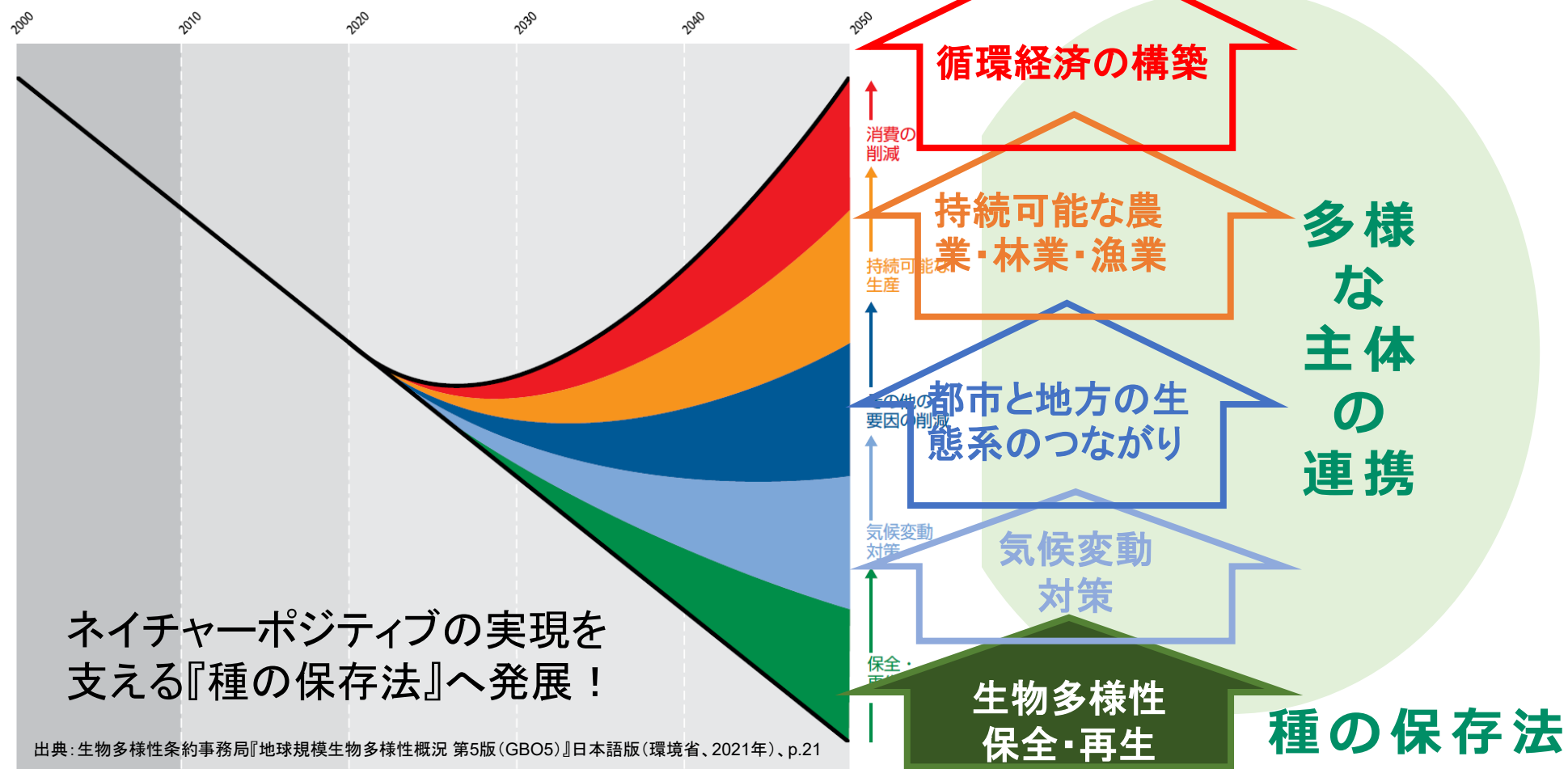
～地域からネイチャーポジティブを実現する視点から～

公益財団法人 日本自然保護協会（NACS-J）
特任部長 出島 誠一

はじめに

『種の保存法』 ➡ 「場の保全」の一層の重視／ 多様な主体の連携で新たな絶滅危惧種を増やさない

生物多様性の損失を減らし、回復させる行動のポートフォリオ



NACS-Jの取り組み①



日本版
ネイチャーポジティブ
アプローチ

『日本版ネイチャーポジティブアプローチ』 地域（市町村）からネイチャーポジティブを実現

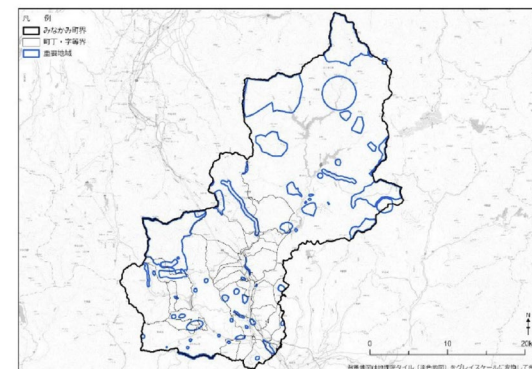


日本のネイチャーポジティブは、地域毎のネイチャーポジティブを積み上げて実現！

- 日本の生物多様性は地域の自然的・社会的条件によって異なるため、「地域から」が重要
- ランドスケープ（多様な自然環境・土地利用）の中で実現することが重要＝同時解決・NbSの実践
- 民間企業等、多様な主体のパートナーシップ構築により実現。
- 最も重要なのは、地域の生物多様性重要地域の把握と地図化と、保全のための課題の整理。



地域のBD重要地域把握WSの様子



群馬県・みなかみ町のBD重要地域

日本初！イヌワシの野生復帰 (宮城県・南三陸町)

- 南三陸イヌワシ生息環境再生プロジェクト協議会との共同プロジェクト。
 - ・ イヌワシ保護増殖事業計画・マスタープランに沿って、保護増殖事業認定を受けて実施。
 - ・ 認定希少種保全動植物園（域外保全）の積極的な協力によって実現
 - ・ 生息環境再生を、国有林、市町村の他、パタゴニア日本支社、株式会社マッシュスタイルラボ等、多様な主体で推進
 - ・ 放鳥場所は「自然共生サイト」
- 三菱地所レジデンス(株)は、仙台市内のマンションにおいて、南三陸の森林認証材を活用。イヌワシの生息環境再生にもつながる取組。
- イヌワシは南三陸町の鳥、志津川中学校には大きな壁画。本PJを自主学習にも活用。
- 本事業に、地域おこし協力隊1名が従事。



志津川中学校



三菱地所レジデンス(株) ザ・パークハウス グラン 仙台広瀬町
*完成予想CGは、計画段階の図面を基に描き起こしたもので実際とは異なります。

1. 場の保全～重要な生息・生育地の総点検

「希少種情報の収集・整備」に基づく、
「希少種の生息・生育地保全に向けた総点検（仮称）」
を確実に実施し、継続するしくみも検討を！

「希少種の生息・生育の場の保全」が最重要

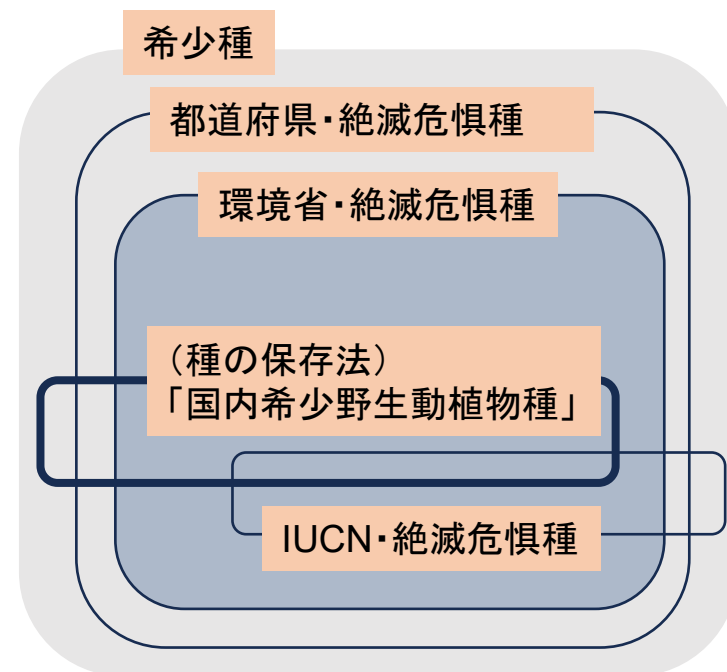
- 「希少種情報の収集・整備」
- 「希少種の生息・生育地保全に向けた総点検（仮称）」



- 保全上重要な地域（ホットスポット）の地図化・公開
- TNFD対応に活用されるために、KBAやIBATへ反映



- 継続するしくみの検討。地域で保全活動を担ってきた市民や専門家の減少・高齢化による、希少種情報を収集・更新する社会基盤への危機意識が必要。



「希少種」の概念図

NACS-J日本版ネイチャーポジティブアプローチにおける、
「生物多様性重要地域の地図化と、保全のための課題の整理」の全国版。

1. 場の保全～既存制度との連携を

既存制度との連携を重視して、場の保全を加速！

「民間等と連携した保全活動の推進」「国と自治体との連携強化」の方向性を踏まえ、既存制度との連携を重視して、「希少種の生息・生育の場の保全」を推進することが重要。

◆「自然共生サイト」との連携

- 希少種の生息・生育する場所を「自然共生サイト」にすることについて、保全にかかわる民間主体への強いインセンティブの設定が重要

◆他省庁の施策との連携

※絶滅危惧種における減少要因は、森林伐採（36.6%）、河川開発（25.9%）。圃場整備は爬虫類（31.0%）や両生類（30.7%）。

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の在り方検討会報告書（R8年7月）」より

- 「国制度OECM」との連携（森林・河川など）
- 「森林・林業基本計画」では、「生物多様性を高める森林管理がされている森林面積」の増加をKPIとして設定。
- 河川整備計画において、「生物の生息・生育・繁殖の場」を河川環境の定量的な目標として設定。
- 「みどり加速化GXプラン」では、ネイチャーポジティブを農山漁村の取り組みに繋げる方向性を明記。多面的機能支払・中山間地域等直接支払・環境保全型農業直接支払。

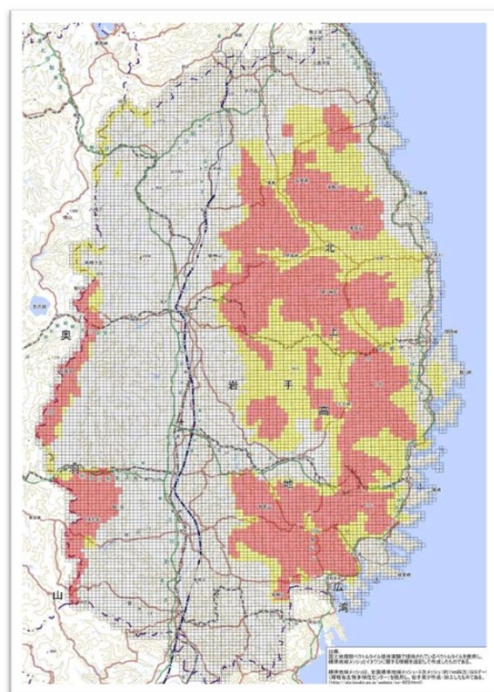
◆自治体との連携～地域振興

- 自治体の希少種保護条例との制度的連携
- 自治体が、希少種保全施策として、「自然共生サイト」や「他省庁の施策」を使いこなすことによって、地域産業（木材、水産物、農産物、観光等）の付加価値等に繋げる！
- 希少種保全の多面的効果を意識した制度設計・財政面・技術面の支援が重要。

2. 開発行為による影響の回避・低減

希少種情報の適切な公開と、実効性ある措置の強化

- 生物多様性保全上重要な地域（ホットスポット等）が公開されることで、開発事業者側が計画段階で重要な地域を回避することが期待できる。
- 一方、風力発電事業において、既に公表されている重要地域（アボイドマップ等）が十分に機能していない側面もあるため、現行法第35条に基づく助言・指導を最大限活用し、助言・指導に従わない事業者名及び指導内容の公表など、措置の実効性を確保する方策の強化が必要。



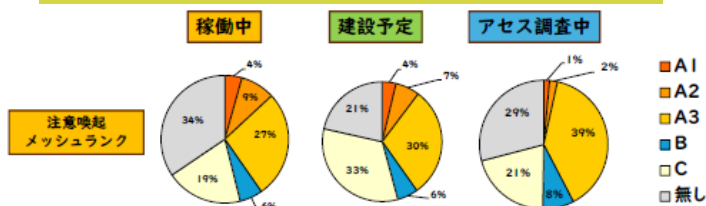
岩手県・イヌワシ生息地図

大型陸上風力発電計画の 自然環境影響レポート 2025

再エネ推進のためにあるべき姿を問う

公益財団法人 日本自然保護協会

2025年11月6日



↑ 風力発電事業と注意喚起メッシュの重なり
自然環境影響度指数ワースト10→

表3. 自然環境影響指数ワースト10の建設予定の陸上風力発電事業計画

建設予定(107件)									
順位	自然環境影響指数	備考	建設事業者(名称)	最大計画出力(MW)	建設年度	所在地	建設期間(年)	事業者(主事者)	その他関係会社
1	710 80.8		余呉南越前第一・第二風力発電事業	16.38	39	滋賀県長浜市・福井県越前市	本庄(津原建設)	株式会社グリーンパワー・インベストメント	・建設地周辺の自然環境の高いアボイドマップ。計画地の大部分がアボイドマップの範囲にあり、影響が懸念され、イヌワシの生息が懸念される。
2	638 76.0		むつ小川原風力発電事業	5.7	15	青森県六ヶ所村	2024年4月	むつ小川原風力発電株式会社(全社で建設)	伊藤忠株式会社
3	590 72.8		宮古岩泉風力発電事業	20.0	70	岩手県宮古市・宮古町	本庄(津原建設)	株式会社グリーンパワー・インベストメント	・計画地内にイヌワシの生息地、周辺にはアボイドマップ。イヌワシ生息への影響が懸念される。
4	540 69.4		グリーンエナジー会津若松風力発電事業	2.0	6	福島県会津若松市	本庄(津原建設)	グリーンエナジー会津若松株式会社(グリーンエナジー・ジャパン株式会社)	・サシバ、スズメの生息地が確認されている。イヌワシの生息への影響が懸念される。アボイドマップの範囲にあり、影響が懸念される。
5	533 69.0		SGET 岩泉ウインドファーム	4.6	12	岩手県岩泉町	2025年12月	SGET 岩泉ウインドファーム合同会社(エー・ピー・エス・グリーン・エナジー・グループ)	・計画地でイヌワシの生息地、周辺にはアボイドマップ。イヌワシ生息への影響が懸念される。
6	529 68.7		下北風力発電事業	14.1	44	青森県むつ市・下北郡	2027年10月	株式会社グリーンパワー・インベストメント	株式会社青森電力
7	484 65.7		宗谷丘陵風力発電事業	15.6	38	北海道稚内市・陸奥市	本庄(津原建設)	株式会社遠北エナジー(株式会社ユースエナジー・ホールディングス)	・計画地は、アボイドマップの範囲にあり、イヌワシの生息が懸念される。
8	477 65.2		大滝山風力発電事業	13.6	35	福島県山形市・酒田	本庄(津原建設)	JV 日本エナジー・開発株式会社	・計画地は、アボイドマップの範囲にあり、イヌワシの生息が懸念される。
9	477 65.2		稲子峠ウインドファーム	5.9	17	宮城県七ヶ宿町	本庄(津原建設)	株式会社GF	株式会社東北電力
10	472 64.9		グリーンパワー稲庭田子風力発電事業	9.5	24	青森県田子町・田子町	本庄(津原建設)	株式会社グリーンパワー・インベストメント	株式会社青森電力

平均 250

種の保存につき講ずべき措置への意見

- ① ネイチャーポジティブの実現を支える『種の保存法』へ展開。
- ② 「希少種情報の収集・整備」に基づく、「希少種の生息・生育地保全に向けた総点検(仮称)」を確実に実施。
- ③ 「希少種の生息・生育の場の保全」を推進するために、既存制度との連携を重視し、連携する民間団体・企業・自治体等が、互いにメリットを得られる制度へ。
- ④ 開発事業に対しては、希少種情報の適切な公開による予防と、実効性ある措置の強化を。
- ⑤ 財産権への配慮と、種の保存という公益を両立するため、実効性のある補償制度の具体的な検討が必要。